前潟干潟研究会　（広島県廿日市市）

● 活動項目

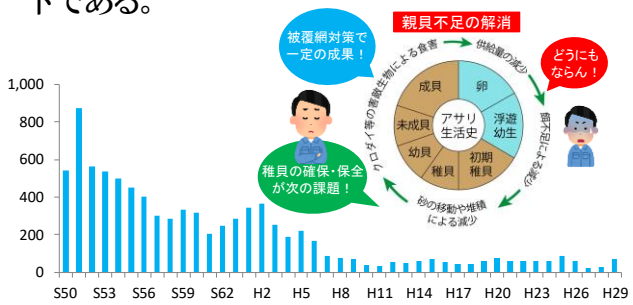
干潟等の保全（網袋を活用した稚貝の確保・保護、ツメタガイ除去、モニタリング　他）

● 組織の構成

漁業者、漁業協同組合　他（41名）
（サポーター：県（普及指導員，国（瀬戸内水研），市（水産振興係），サポート専門家）

● 地域の現状・課題

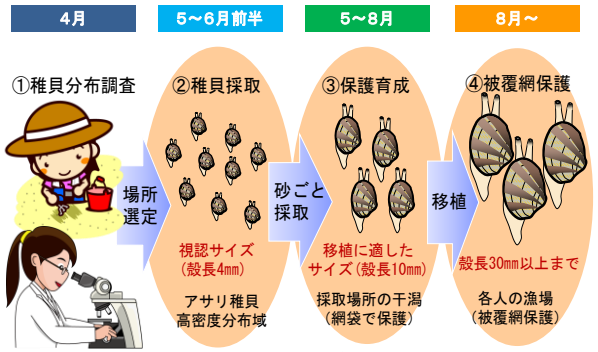
- 前潟干潟研究会が活動する大野瀬戸は、広島湾奥に位置する海峡であり、日本三景の安芸の宮島と対岸の廿日市市との間にある。カキの産地として全国に名をはせるが、アサリも「大野あさり」の愛称で親しまれている。
- 廿日市市のアサリ漁獲量は県内一であり、県内生産量のおよそ半分を占めている。しかし、漁獲量はピークにあった昭和51年876トンの1/10以下まで落ち込んでいる。
- 干潟の減少、海域の貧栄養化、クロダイ等による食害など、複合的な要因が考えられているが、現在問題となっているのは、資源の大幅な減少親貝の不足と、それに伴う稚貝供給量の低下である。



廿日市市におけるアサリ漁獲量(t)の推移

● 活動の内容

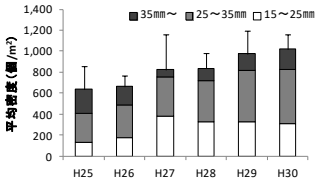
- 親貝不足を解消するため、被覆網を活用した食害対策を導入したが、回復には至らず。「前潟干潟研究会」を平成25年に結成し、地元稚貝の確保・保全を目標に取り組みを開始した。
- 春先（5～6 月上旬）に米粒大のアサリ稚貝が数多くみられるが、6 月を過ぎた頃から食害などの被害が顕著になり、大幅に減少して7月には消失する。そこで、春先に見られる稚貝を砂ごと採取・確保し、保護・育成する新しい技術「大野方式」を考案した。
- 大野方式による「年間400万個の稚貝の確保」を目指す取り組みを、平成29年度からスタートすることにした。



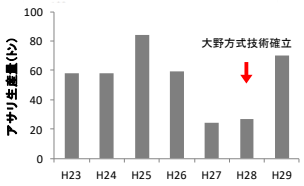
大野方式アサリ稚貝の確保・保全フロー

● 活動の効果

- 中期目標とする稚貝確保量は400万個であり、その達成のために、平成29年以降、参加者を募り、袋の設置数を1万袋まで増やすことができた。しかし、アサリ稚貝密度が29年以降、大幅に減少し、目標達成には至らなかった。
- ただし、①稚貝集積場の干潟を新たに2箇所見つけたこと、②稚貝の採取面積を増やす工夫をしたことが功を奏し、年間200万個前後の稚貝を3年に亘って確保できた。
- 今後も、稚貝分布調査で場所を選定し、目標を達成できるよう、活動を進めていく。



稚貝移植した干潟における
アサリ平均密度



廿日市市における
アサリ漁獲量

年度	稚貝確保の実績		
	設置袋数	参加者数	回収個数
H27	458	83人・日	59万個
H28	3,400	170人・日	268万個
H29	10,400	530人・日	220万個
H30	10,250	565人・日	192万個